

第3章 めざすべき環境の姿と基本目標

Section 1 . 目標設定の必要性

岡谷市環境基本計画は、「第3次岡谷市総合計画」を環境面から支援していくものです。

第3次総合計画は、第2次総合計画と同様、岡谷市民憲章を都市づくりの基本理念としています。第2次総合計画の将来都市像である「豊かな自然と調和した国際文化産業都市」を基調としながら、さらにこれを継承発展させていくため、「人と自然が共生する健康文化産業都市」を将来都市像と定め、市民とともに歩むまちづくりを推進することとしています。

環境の保全は、市民が健康で文化的な生活を営んでいく上で、また、人と自然が共生していくために、欠かすことができない重要な課題の一つです。本市の環境の現況を把握し、すべてのものの共通認識となる「望ましい環境像」を定め、その実現に向けて、長期的視野に立った環境施策の展開が求められています。そして、行政だけではなく、市民及び事業者がそれぞれの責務を認識し、一体となって環境保全に取り組んでいくことが必要です。

Section 2 . 望ましい環境像

本市は、諏訪湖の西岸に面し、天竜川、横河川などの河川もあり、水環境に恵まれています。諏訪湖及び天竜川の水質浄化は、私たちの大きな目標の一つになっています。また、市街地を囲む山々は、私たちに潤いとやすらぎを与えてくれる貴重な緑の資源です。このような環境特性を基調に、市民憲章や第3次総合計画、市民アンケート調査の結果等を踏まえ、本市の望ましい環境像を、すべてのものの共通認識として次のように掲げます。

あふれる緑と清らかな水につつまれたまち

これは、あふれる緑と清らかな水が、生物を育み、大気をも浄化する機能を持ち、望ましい環境のシンボルとして普遍的な要素であるとともに、将来の世代に引き継いでいかなければならない貴重な環境資源であると考えられるからです。

この環境像は、「諏訪湖をわたってくるさわやかな風がやさしくほほをなで、深い

緑につつまれた山々が美しい稜線を描き、耳を澄ませばどこからか小鳥たちのさえずりが聞こえる、豊かな自然の息吹があふれ、人と自然が共生して四季の移り変わりを鮮やかに映し出す環境のまち」をイメージするものです。

Section 3 . 望ましい環境像を実現するための目標

望ましい環境像「あふれる緑と清らかな水につつまれたまち」を実現するため、本市の環境の現状等を踏まえ、次の6つを基本目標とします。そして、基本目標ごとに具体的な個別目標を設定し、これらの目標を市、市民及び事業者の共通のものとして、環境の保全を推進します。

また、基本目標ごとに主な指標を設定し、河川の水質や事業の利用者数など、岡谷市の環境の状況と目標又は方向性を市民にわかりやすく示し、数値目安として関心を高めます。

1 . 「すがすがしいまちづくり」

さわやかな空気、清らかな水に象徴される安全で健康的な生活環境の確保に努めます。

指標 1	シルキーバス利用者数	
	平成16年度 191,016人	方向性 ↗
	塚間川水質 (BOD)	
	平成16年度 1.1mg/l	方向性 ↘

2 . 「自然とふれあえるまちづくり」

水や動植物とのふれあいの場の整備を推進するとともに、恵まれた自然環境を適切に保全するよう努めます。

指標 2	小鳥バス参加者数	
	平成16年度 572人	方向性 ↗

3. 「物を大切に作る循環型まちづくり」

3Rの推進、また、資源・エネルギーの有効利用に努めます。

指標3 ごみ排出量・資源化率				
可燃ごみ	平成16年度	15,632トン	平成21年度目標	13,510トン
不燃ごみ		365トン		203トン
資源物		4,492トン		4,458トン
計		20,489トン		18,171トン
資源化率		21.0 %		24.0 %

4. 「美しさと潤いのあるまちづくり」

経済性、利便性の追求だけでなく、環境に十分配慮した快適で潤いのあるまちづくりに努めます。

指標4 諏訪湖一斉清掃ごみ回収量				
ごみ回収量	平成16年度	1680kg	方向性	↘
資源物量（空き缶・びんなど）		100kg	方向性	↘

5. 「地球環境の保全」

地域における環境保全活動を通じて、地球環境の保全に貢献します。

指標5 太陽光発電設置延べ件数				
	平成16年度	260基	平成21年度目標	410基
雨水タンク設置延べ件数				
	平成16年度	44基	平成21年度目標	120基

6. 「市民総参加による環境保全」

市民一人ひとりが環境の現状を認識し、環境の保全に関する知識を身につけ、自主的な活動を推進します。

指標6 諏訪湖一斉清掃参加者数				
	平成16年度	6,600人	方向性	↗